



③ 箱田神社

箱田神社の起源にはいくつかの説があります。江戸時代に建てられた社殿は、明治時代に改修されました。熊谷空襲のときには、神職の祈りが通じ、突然の夕立により焼失しないですんだと伝えられています。



③ 中央公園

約9千本の樹木が茂る緑のオアシス。春にはソメイヨシノだけでなく、しだれ桜の銘木が花を咲かせ、桜の街・熊谷を象徴する公園です。園内には1983年の市政50周年を記念して、100周年にあたる2033年に開封予定のタイムカプセルも埋められ、熊谷市の記憶を刻む装置でもあります。



スタート

① 埼玉県立熊谷図書館

熊谷図書館から中央公園に向かう。公園の手前の細い水路が成田用水で、流れに沿って右に折れて散策のスタート。



埼玉県マスコット
コバトン

用水の散策と本の探索のすすめ

農業用水に沿って散策するなんて、あまり思いつかないかもしれません。

でも埼玉県立熊谷図書館から六堰まで、わずか15キロですが、この地図におさめただけでも、おもしろスポットの集中度はかなりなものです。

実際に歩いてみて、あるいはこの地図を見ていて、おもしろそう、もっと知りたいと思ったら、本の世界が待っています。

たとえば壺井栄（つばいさかえ）が書いた本は、図書館に行って検索すればいくつも作品名がでてきます。

・『母のない子と子のない母と』（いくつも版がでています）
は、熊谷西小学校に通う子どもと母親が戦災にあり、父親の郷里の小豆島（しょうどしま）に移り住む話です。

荒川から農業につかう水用水に導く堰のしくみや、地域の歴史のことを知るにはどうすればいいでしょう？

どう調べたらいいかわからないときや、自分で調べてみても思うように解決できないときには、図書館にレファレンスというサービスがあります。図書館のカウンターで相談してみてください。

たとえばこんな本を紹介されるかもしれません。

- ・『六堰用水の研究』（大沢章一著 1990年）
- ・『箱田界限（はこだかいわい）』（井上善治郎著 2011年）

成田用水のこと、成田用水が熊谷市役所付近を流れる箱田地区のことについて、とても参考になる本です。どちらもいろんな資料を調べ、何人もの人に話をきいて書かれています。どんなふうに知識を深めていったかわかるし、そうして知識を深めることの楽しさも伝わってきます。

知らない世界に入っていくことを冒険といえます。うちの近くの用水をたどってみるのも、そこで出会った初めてのことを本で調べてみるのも、ささやかでも冒険です。

この薄い地図が、小さくても冒険や発見のきっかけになればさいわいです。

この地図では成田用水をさかのぼって六堰にいたります。

では成田用水を下ったらどこへ行こう？

発行：2011年10月

制作：埼玉県立熊谷図書館 埼玉県熊谷市箱田 5-6-1

tel. 048-523-6291 <https://www.lib.pref.saitama.jp/>

協力：埼玉県読書推進運動協議会（埼玉県立熊谷図書館内）

デザイン：井上正（古民家ギャラリーかぐや） <http://g-kaguya.com/>



埼玉県

川浴い散策マップ

県立図書館から六堰まで 成田用水のルートをたどる



市街をきれいな水が流れている。
この流れには名前がある？
どこから流れてくるの？

◎ 散策にあたって

- ・この地図は、「川浴い作品展」に協賛して、埼玉県立熊谷図書館が作成したものです。
- ・「川浴い作品展」は、熊谷市箱田付近を流れる成田用水近くにお住まいの方々が年1回、自作の絵や書などの作品を展示し、訪問者に楽しく過ごしていただくように催しています。
- ・地図は、熊谷市街から六堰頭首工まで、成田用水に沿ってさかのぼる行程としてあります。
- ・道がわからなくなったら、深谷市川本明戸で用水が暗渠（あんきょ）に入るまでは、荒川の土手の道に上れば、その先のポイントに行き着けます。
- ・暗渠の先は、旧国道140号を寄居方面に向かえば六堰頭首工に着きます。
- ・埼玉県立熊谷図書館から六堰頭首工まで約15kmです。（マップに記したルートは、車では走れない区間が多くあります。）

制作：埼玉県立熊谷図書館

⑥ 秋山要助

江戸後期の剣豪・秋山要助は紺屋の子としてこの地に生まれました。博徒（ばくと）の用心棒として鬼のように恐れられたというのはお話の世界。実は多くの門弟を育てた教養人でした。もちろんその剣は強く、豪快な突きを得意とし、真剣勝負では負け知らずといわれています。



1 北大通りにでる。



2 用水は国道17号の手前で地下にもぐり。



3 国道を越えると「がってん寿司」の右の地表に現れる。散策は「宮脇書店」の左の道を石原駅に向かう。



① くまん堂

熊谷直実の父・直貞ゆかりの伝説があり、昔の熊谷氏の館がこのあたりまであったと言われています。元は熊野神社でしたが、高城神社に合祀（ごうし）されたため、大正2年に建てられた石碑だけが昔の由来を伝えています。



④ 共有石橋三十有所養塔

（きょうゆう いしはし さんじゅうしやうしよくとう）

成田用水の支流に立っている石碑です。橋の架設を記念して、明治16年9月に建立されたものようです。当時は、橋の建設に感謝を示すほか、橋や川にまつわる死者を慰め、村の中へ災いが入るのを防ぐなど、いろいろな意味で石塔が建てられたようです。



⑤ 壺井栄（つばいさかえ）

小説『二十四の瞳』で有名な作家・壺井栄は、熊谷大空襲の前後、箱田に住んでいた妹夫婦をよく訪ねていました。小説『母のない子と子のない母と』には、西小学校（現在の市役所のあたりにあった）や箱田、星川の地名などが登場します。



ゴール S 六堰頭首工（ろくせきとうしゅこう）

荒川から大里地区に農業用水を取り入れるために、江戸時代には6つの堰がありました。1939年に1つに統合した「六堰頭首工」ができました。1999年に台風で堰の一部が流され、現在の堰は21世紀に入って改修されたものです。



① 島田屋跡

明治の文豪（ぶんこう）、幸田露伴（こうだろはん）が泊まった旅館の跡です。「五重塔」で知られる露伴は旅を好みました。秩父への旅の紀行文『知々夫（ちぢぶ）紀行』のなかで、「荒川の鮎を得たれば、小酌（しょうしゃく）に疲れを休めて快く眠る。」と、この宿で気分がよかったことを記しています。今は信号の近くの街灯に小さな看板が残っているくらいです。



② 菅沼沈砂池（すがぬまちゃんさち）

こんもりした森の中に菅沼天神社（すがぬまてんじんしゃ）があります。見おろすと、暗渠（あんきょ）になっている用水の管理のために、ここだけ流れが地表に現れているのが見えます。



③ 江南サイホン呑口（のみくち）

かつてはここから荒川の河床をくぐって右岸地区へ用水を通していました。この仕組みをサイホンといい、地中に水が流れこむ入口を呑口（のみくち）といいました。六堰改修後は、そこから右岸に通水していて、このサイホンはその役目を終えていますが、呑口は美観も大切にした後世に伝えるべき建造物として今も保存されています。



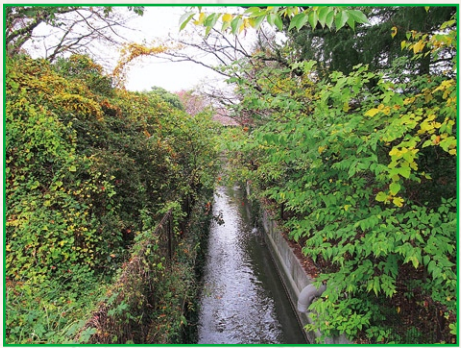
M 石橋供養塔

大麻生駅からの道が旧国道140号につながる手前に用水があります。橋の近く、ここにも石橋供養塔があり、大切な川と橋への思いがしのべれます。ここから用水に沿って進みます。



L 秩父鉄道熊谷車両区

秩父線を走る電車のメンテナンスをしています。広い敷地内にはおもしろい機械仕掛けがいっぱい。Sしもここで整備され、休日には煙を吐いて元気に走ります。（一般公開はイベント時のみ）



7 ゴルフ場のコース

とクラブハウスの間を抜ける。このあたりは緑が深い。



▲赤い橋の下が用水



5 石原駅につきあたり右に行く。すぐ先のT字路で左折（縄文土器のような大きな木が目印）。

秩父線の踏切を渡り、新幹線の高架をくぐる。



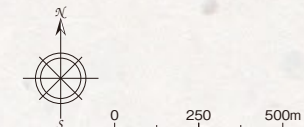
▲目印の木で左折



④ 旧妻沼線

正式名称は「東武熊谷線」。熊谷駅から妻沼駅まで約10Kmを結んでいました。1983年に廃線となり、今は一部分が遊歩道（緑道）「かめのみち」となっています。ここで高崎線と旧妻沼線と用水が交差していました。

4 高崎線の踏切を渡ってから3つ目の角、遊歩道「かめのみち」を右に行く。高崎線と旧妻沼線と用水が交差する地点にでる。（そのあとは元の道に戻る）



R スタジオロクセキ

写真館です。かつてはもっと六堰の近くにあり、今の館主のおとうさんは改修前の六堰の管理を手伝っていました。今の館主が小さい頃には、六堰に子どもたちが集まってきて、泳いだり、魚をとったりしたそうです。



14 もくせい館（深谷市高齢者福祉青少年活動複合施設）のドームをめざして行くと、もくせい館の裏にでる。（ここを流れているのは荒川に注ぐ川で、用水ではない。）この先は旧国道140号に出て、ゴールに向かう。



13 ここから上流は暗渠（あんきょ）になる。

土手上で左右に交差する道があり、その先の左に降りる道に行く。右の土手に並行して、先方に（グラウンド）照明灯が見えてくるのを目ざして進むと、菅沼天神社に出る。



N 荒川左岸分水工

熊谷特別支援学校を右に見ながら進んだ先で、右に、鉛筆が3本上を向いて並んだような設備が見えます。土手を降りていくと橋があり、用水が3つに分かれています。奈良堰、玉井堰、大里幹線用水（成田用水）の分岐点です。



12 ゴルフ場の入口の先で、踏切を渡り、ふたたび土手の上にする。



9 「ひろせ野鳥の森駅」の先で用水は右にそれる。流れをたどる道はわかりにくいので、土手の上の道に行く。（春は桜の名所）



6 道が土手につきあたるので、土手の上の道に上がる。



K 赤城除塵機（あかぎじょじんき）

用水が熊谷の市街地に入っていく手前に、用水を流れてくるゴミや落ち葉などを取り除く仕組みが作られています。

① 宮澤賢治（みやざわけんじ）の歌碑

今から約百年前に熊谷を訪れたのが、若き日の宮澤賢治でした。賢治は熊谷寺を回った後、旅館「松坂屋」（現在の八木橋百貨店近く）に泊まり、翌日から秩父へ向かいます。このときの印象が、八木橋百貨店前の歌碑に刻まれています。



① 旧中山道の碑

創業明治 30 年、県内最初の百貨店が八木橋百貨店です。この老舗（しにせ）の周囲には歴史を伝えるものがいっぱいあり、その一つが店舗の東西の出入り口にある旧中山道の碑。旧中山道は、現在の八木橋百貨店の1階通路を通っています。

武蔵の国熊谷宿に歟座の
淡々ひかりぬ九月の二日
賢治